

離島架橋建設事業について(沖之島架橋)

土庄町役場 建設課

1. はじめに

土庄町は、瀬戸内海国立公園に浮かぶ小豆島の西北部に位置し、小豆島及び豊島、小豊島、沖之島などの島々で構成される町です。面積は74.38km²、人口は約1万2千人の規模で、美しい自然に囲まれ、歴史と文化が香る観光地として多くの来訪者を魅了しています。



図1 (地理院地図)



図2 (香川県土庄町)

土庄町には、ギネス認定された世界一狭い海峡「土渕海峡」、潮の満ち引きで出現・消失する不思議な砂の道「エンジェルロード」、壺井栄の名作『二十四の瞳』をモチーフにした平和の群像など、数多くの観光スポットがあります。これまでに多くのドラマや映画のロケ地としても利用され、地域の魅力を広く発信してきました。

名産品においても、明治時代に日本で唯一根付けに成功した「オリーブ」、江戸時代より受け継がれる「醤油」、「そうめん」や「ごま油」

といった日本有数の生産量を誇る食品をはじめ、小豆島産オリーブのしほり果実を配合した特別な餌「オリーブ飼料」で育てられた「小豆島オリーブ牛」、さらには全国発信を目指すブランド鰻「小豆島 島鰻」など、豊かな自然と伝統に育まれた特色ある特産品が揃っています。

また、瀬戸内国際芸術祭を契機として、島独自の文化や自然とアートとの融合が進み、新たな魅力が創出されています。さらに、町を舞台にした人気アニメ『からかい上手の高木さん』によるアニメツーリズムを通じ、多くのファンが全国から訪れる「聖地巡礼」の場ともなっています。

これらの自然と文化、観光魅力を背景に、2024年には「グリーン・ディステーションズアワード」



図3 エンジェルロード

において四国で初めて「世界の持続可能な観光地」に認定され、シルバーアワードを受賞しました。この受賞は、地域の持続可能な観光促進への尽力の成果を表しており、今後もさらなる観光資源の可能性が広がることが期待されています。



図 4 GDsilver award

2. 安全・安心の道づくり

小豆島を東西に横断する国道 436 号は、兵庫県姫路市を起点とし、香川県高松市に至る一般国道です。島内では福田港から土庄港を結ぶ約 29km の基幹道路として、観光や産業、地域経済を支える重要な幹線道路となっています。

この道路は大規模災害時にも避難活動や人命救助、生活物資の広域的輸送、災害応急復旧における緊急輸送路として機能する重要な防災拠点を接続するため、その整備が急務となっています。また近年では、小豆島を一周するサイクリングルートが整備されるなど観光利用の拡大も見られ、道路の利便性と安全性がさらに求められるようになっていきます。

現在、線形不良箇所や自転車歩行者道が確保されていない部分が残っているため、バイパス整備、既存道路の拡幅、歩行空間の確保、自転車歩行者道の整備を推進し、安全・安心で快適な交通環境づくりを進めています。

3. 沖之島の現状

土庄町には、小豆島、豊島、小豊島、沖之島という4つの有人離島があります。このうち沖之島は面積0.18km²、周囲2.8kmの小さな島ですが、22世帯・49人の住民が生活しています。高齢化率は50%を超えており、交通の不便さや過疎化が進む中で、生活環境の課題が顕著となっています。

沖之島と四海地区^{しかい}をつなぐ移動手段として利用されている町道沖之島線の渡船は重要な生活道路として機能していますが、通学や教育環境の不便さが若い世代の流出を招いているほか、地場産業の担い手不足に加え、高齢者世帯の病院や福祉施設への通院が困難となるなど、課題が山積しています。また、南海トラフ地震の発生の可能性が指摘される中、急病や火災など緊急時の早急な対応が困難であり、島民にとって日々安心できる生活基盤に対する強いニーズが存在しています。

こうした背景を受けて、沖之島住民の念願であり、四海地区住民からも強く要望が寄せられてきた離島架橋建設事業は、約2年間にわたるルート選定を経て、社会資本整備総合交付金事業を活用して、令和4年6月に工事に着手しました。令和8年度中の完成を目指し、現在は取付道路の上部工事を進めています。

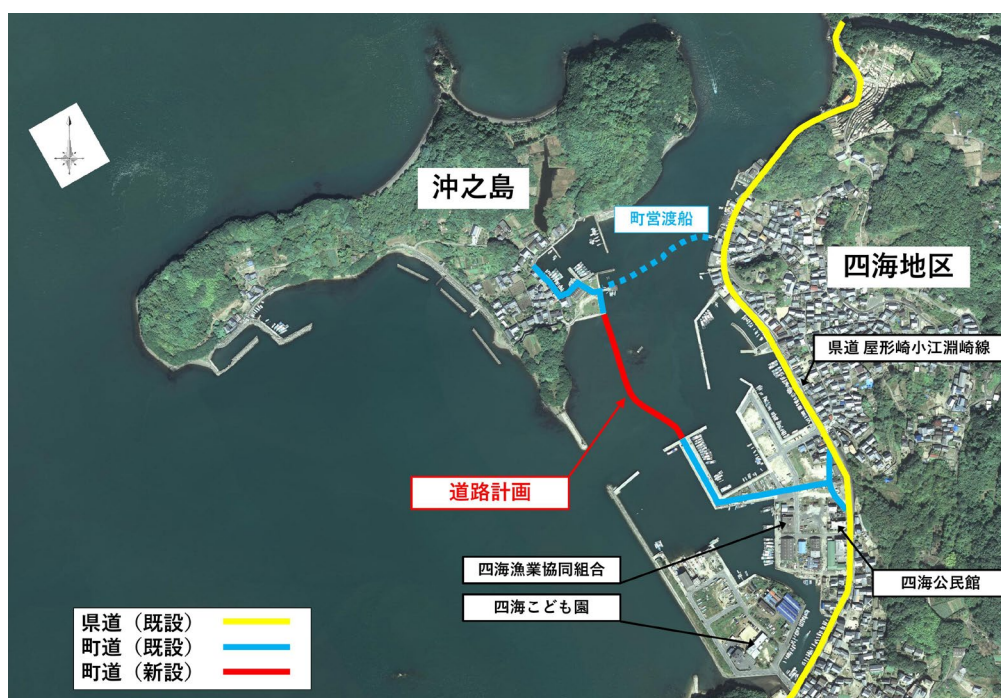


図5 位置図



図6 渡船写真



図7 全景写真

4. 事業概要

- ・延長：340m（うち橋長 33m）
- ・構造種別：3 種 5 級 幅員 5.0m
- ・上部工形式：PC 単純ポステン中空床版橋
- ・下部工形式：逆 T 式橋台
- ・基礎工形式：直接基礎

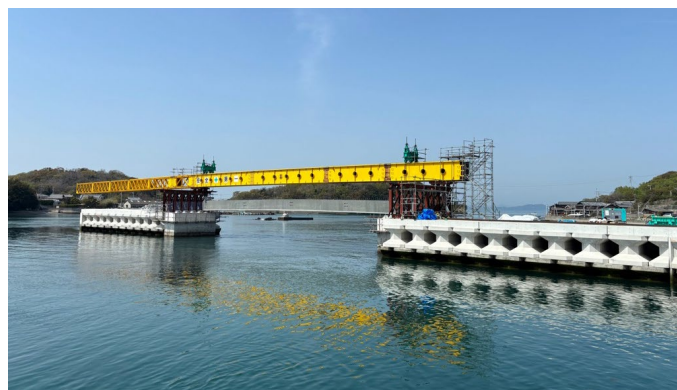


図 8 上部工架設状況

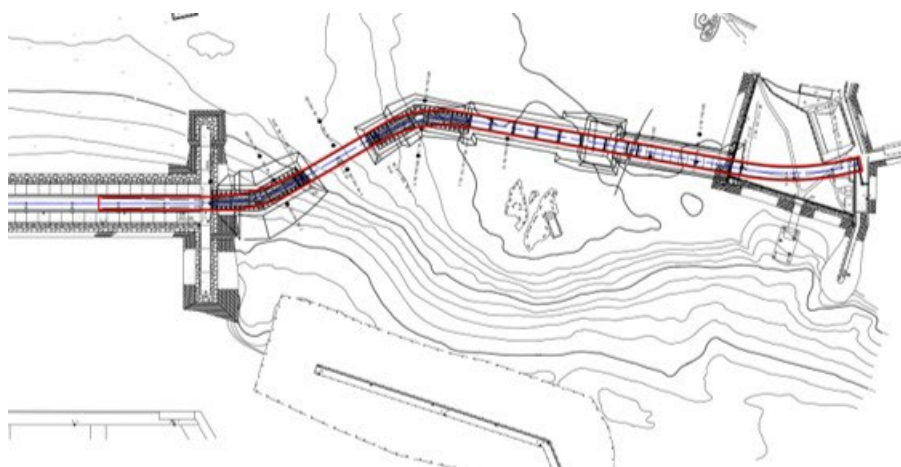


図 9 平面図

5. おわりに

道路は地域住民の生活に密接に関わり、地域の活性化に資する必要不可欠な社会資本であり、この橋の完成は、住民の日常生活に大きな変化をもたらし、緊急時や災害時には避難路として機能するほか、安心して暮らせる地域づくりに寄与する重要なプロジェクトです。

今後は引き続き関係機関と連携し、安定的な道路予算の確保や地方への支援強化のための活動に積極的に関わり、地域住民の生活はもとより、観光やビジネスで小豆島を訪れる方々に満足していただけるようなまちづくりに取り組んでまいります。

また、現在、瀬戸内国際芸術祭 2025 の秋会期が開催中です。小豆島にぜひお越しいただき、瀬戸内の自然・文化・歴史と融合したアートをご堪能ください。